

感動をありがとう！体育大会終わる…

校長 立部 剛

2年ぶりに一日開催の体育大会が戻ってきました。この行事は全校、学年、学級で一つのことに取り組むことで所属感や一体感を高めることが大きな目的です。子どもたちは、この目的をよく理解し、練習の段階から本番まで気持ちを合わせて声を掛け合いながら、よく取り組みました。本番での全力疾走の姿やはじける笑顔を見ながら、実施できてよかったと心から思いました。保護者の皆様にはどのように子どもたちの姿が映ったでしょうか。

コロナ対策から、昼食時間に校外で過ごしていただくというご不便をおかけしましたが、混乱することなく、保護者の皆様のマナーに素晴らしさも感じました。多くのご声援をいただきましたこと、心より感謝申し上げます。



【10月のおもな行事】

- | | | |
|----------|-----------------------------------|----------------------|
| 10/3(月) | 芸術鑑賞教室 | ※予定ですので変更になることがあります。 |
| 10/6(木) | 3年租税教室 | |
| 10/8(土) | 土曜授業 | |
| 10/12(水) | 3年第3回実力テスト、1・2年中間テスト
1年南極の氷贈呈式 | |
| 10/13(木) | 3年第3回実力テスト、1・2年中間テスト | |
| 10/18(火) | 第4回PTA理事会 | |
| 10/20(木) | 3年ストレスマネジメント | |
| 10/26(水) | 学校専門部会 | |
| 10/28(金) | 合唱コンクール／学習発表会
第2回弁当の日 | |

【授業自由参観】

11月1日(火)・2日(水)

※両日とも1～2校時のみ参観可能

栄光の軌跡

● 第68回鹿児島県昆虫・貝・植物・岩石展（植物の部）

＜鹿児島環境未来館賞＞1年男子1名

● 鹿児島市中学校理科研究記録展

＜特選＞1年男子1名

＜入選＞1年男子2名

1年女子3名

● 第15回南日本ジュニア美術展

＜特選＞2-6 内田彩水

内田さんの作品は南日本新聞にも掲載されました。



内田 彩水
(紫原中2年)

〜〜 学校に届いた一通の手紙 〜

突然のお手紙失礼いたします。

私の母のことでお礼が言いたく、今回お手紙を書かせて頂きました。

私の母は高齢で紫原に住んでおりました。体が不自由でなかなか外に出ず、家で過ごしていた母ですが、さらにコロナ禍で人と話す機会が減ったため、昨年心の病を患いました。私は東京に住んでおり、なかなか帰省が頻繁にできないため、母のことを心配している中、今年に入り鹿児島市内に住んでいる弟から母が自分の命を傷つける行為を行っていることを聞き、大変ショックを受け、今後紫原に戻ってきた方がよいのか悩んでおりました。



5月のゴールデンウィークに帰省した際には別の病気も患っていることもわかり、家族一同、もう施設に預けた方がよいのか、そんなことをしたら後悔しないか、いろいろな葛藤やどん底に落ちたような気持ちに追い込まれながら、8月のお盆休みにどうするか決定しようと話を進めておりました。

その後、弟は見た目にも沈んだ母を何とかしないといけないと、たまに散歩に連れていくようになりました。

そんな日がしばらく続き、ある日、朝の散歩で貴校の生徒さんの一人が元気よく笑顔で挨拶をしてくれて、母がびっくりしたような表情とその後笑った表情にしばらくたったと弟から聞きました。久しぶりに笑った顔を見て、弟も嬉しくなり私に連絡をくれました。

その後、私もすぐにつけかけましたが、表情は抜け殻のようにぼーっとしていました。

ただ、散歩したら何かが変わるのではないかと、私も一緒に数日散歩を試みることにし、母の家に泊まることにしました。1日目、2日目と散歩に寄り添っていましたが、変わりがなく、東京に帰ろうとした3日目、同じように朝から母と散歩をしていると、前からすれ違うたびに一人一人に元気よく挨拶をして歩いてくる少し坊主頭のガッチリとした風貌の貴校の男の子が来ました。その子を見たとき母の生気が戻ったようにマスクを外し、「おはようございます」と力強い声で挨拶をしたのです。私も驚きと言いつつも嬉しさを、「おはようございます」と挨拶をし、その男の子は私たちよりもさらに大きな声で、「おはようございます」と私だけでなく母にも挨拶を返してくれました。母はその場に立ち止まり、ずっとその子が歩いていく姿を見つめながら最高の笑顔で見送っていました。

きっとこの子が母を笑顔にしてくれたのだと強く確信し、感動と感謝をその時に感じました。

家では無表情だった母が散歩にいくと誰かを探すようにキョロキョロし、紫原中学校の生徒さんをみると生気がみなぎるのです。笑い話ですが、その時私たち家族は「紫原中療法」という名前を勝手につけて家族の中で母のためのよい治療法として散歩をしていました。母だけでなく私たち家族もその男の子にまた会えないか、どこか心の中でワクワクしていました。

私の主人も上半身が不自由な母を支えながら、わざわざその子に会ってみたいと東京から週末来ては、散歩に付き合ってくれるようになり、ある日その子と挨拶をしてすれ違いました。主人も芸能人に会ったかのように、その子を見た瞬間、興奮気味に「あの子だね。すぐわかった」と声を発していました。世の中には病気で見た目が不気味に見えるくらい見た目になった母を一人の人として見てくれる人が世の中にいることを感じ、私たちも深い感動と元気をもらいました。

その後、母は散歩が日課となり、だんだん笑顔が増えてきましたが、7月に肺炎を患い、同月末コロナ感染後に他界しました。

ようやく四十九日の法要を終え、落ち着いた時に、ふとこのことを思い出し、母の笑顔が浮かんできましたので、突然ではありましたが、いてもたってもいられずパソコンを手に取り、鹿児島で身辺整理をしながら今、お手紙にさせていただきます。すばらしい挨拶と笑顔、本人からしたらおそろくただのいつも通りの挨拶、日常習慣だったのかも知れませんが。あれだけたくさんの人に挨拶をして歩いていけば私たちのことなど、覚えていないと思いますが、元気で笑顔の「おはようございます」に救われた家族がいたことを是非知っていただきたいです。

貴校の教育が行き届いている証であると私は感じております。

来月主人の転勤が決まり、私たちは家族で東北への引っ越しが決まりました。

遠い地ではありますが、貴校の繁栄をお祈りし、今後とも貴校の素晴らしい教育が広がっていくことを願っております。長くなりましたが、本当に、校長先生及び教職員の皆様の日頃のご指導、優しく育った生徒のみなさんへ心より感謝申し上げます。心からありがとうございます。

上は9月12日に学校に届いた東京在住の方からの手紙で、全校朝会で生徒に紹介しました。生徒の何気ない挨拶が地域の方の心の支えになったこと、前向きに学校生活を送ることが、地域や社会に大きな力になることなどについて話しました。

いよいよ一年も後半に入りますが、次に向かって頑張っていきます。 【校長】